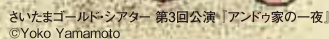


彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

四川日报 2013.12.12

SAITAMA ARTS THEATER
15th
ANNIVERSARY



INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.21 May.-Jun

ESSAY 03 『ムサシ』

荻野アンナ

PLAY 04 さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』

ケラリーノ・サンドロヴィッチ インタビュー

PLAY 05 『95kgと97kgのあいだ』公演レポート

フェスティバル／トーキョー

PLAY 06 蛭川幸雄、新プロジェクト

“若いチカラ”、いよいよ始動

TALK 08 公開対談 NINAGAWA 千の目 第17回 蛭川幸雄×

女優 大竹しのぶ

DANCE 12 ヤン・ファーブル『寛容のオルギア』

DANCE 14 dancetoday2009

unit-Cyan (金森穰 井関佐和子)

廣田あつ子×中村恩恵

C/Ompany (大植真太郎 柳本雅寛 平原慎太郎)

MUSIC 16 ピアノ・エトワール・シリーズ vol.9

アレクサンダー・ガヴリリュク インタビュー

MUSIC 18 バッハ・コレギウム・ジャパン

ヘンデル没後250年記念特別プログラム

20 EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION

イベント・カレンダー 2009.5.15-2009.7.31 / 前売りチケット発売情報(～2009.7.18) / 発売中公演情報

23 THEATER BRIDGE

『堤 剛&小山実雅恵 デュオ・リサイタル』公演レビュー／募集など劇場からのご案内

24 劇場に遊ぶ、劇場で出会う

表紙:さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 ILLUSTRATION:山本容子

編集:佐藤優 ©(財)埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.MAY 2009 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

【作】井上ひさし 吉川英治(宮本武蔵より) 演出 蛭川幸雄 音楽 宮川彬良
 【出演】藤原竜也 小栗旬 鈴木杏 吉田鋼太郎 辻 萬長 白石加代子 ほか
 3月4日(水)～4月19日(日) 全54公演 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール



『ムサシ』 3月13日公演より

荻野アンナ

むさし&ひさし

『ムサシ』を執筆中の井上ひさし氏とお会いする機会があった。剣のみならず、禅、能、狂言、茶など日本の伝統が全て盛り込まれる予定と伺い、「観ます！」と手を挙げた。

当日の舞台は、状況設定が済んだ辺りで、私の胸の中で「武蔵」が「ムサシ」に溶けていた。具体的には第一幕三場の「蛸」で近代演劇の作法が一举に崩れる。「なんまん蛸だぶつ」という奇怪な狂言で、「観劇」するつもりだった頭の回路がブチンと切れた。その後が主要人物による五人六脚(！)。演じる役者さえ我が身の動きが読めずに、のたくる全体はムサシというよりムカデだった。

「蛸」の次が「狸」。カチカチ山の後日譚が能に化けて登場する。大衆のための民話と、為政者の娯楽であった能が合体している。作者はジャンルの高低をあえて混交することで、伝統を歴史から掘り起こし、私たちの側に送り届けてくれる。ラブレールを論じるパフチーオンに言葉を借りると、「ムサシ」は「広場の笑いの劇であり、広場における民衆の群のカーニバル的たわむれ・遊戯」なのだ。

命がけの剣の修行も、すり足のタンゴでたちまちファルスの領域に送り込まれる。あだ討ちで切断された腕も、「陽気な死」を経て新たな世界を生む酵母の一つとなる。

これほど笑える平和賛美は、ルネサンス以降では「ムサシ」だけ。むさし・ひさしの名コンビに拍手は鳴り止まなかった。

No.21



©石川純



©taro



©大原幹行



©宮川舞子



©Malou Swinnen



©NOMO



©細野晋司



©Marco Borggreve



©加藤英弘

Keralino
Sandorovich

interview

文=徳永京子 [演劇ライター]

アンドウ家の一夜
さいたまゴールド・シアター 第3回公演想像がつかない大人数、
だからおもしろい

さいたまゴールド・シアター、待望の新作を書き下ろすのは、ケラリーノ・サンドロヴィッチ。
蜷川幸雄の「書いてくれる?」という問いに二つ返事をしたのが2年前。
昨年12月の顔合わせを経て、6月の上演に向け、ただいま執筆中。



3月、国際的な演劇祭である「フェスティバル/トーキョー 09春」に参加し、広い注目と高い評価を集めたさいたまゴールド・シアター。平均年齢70歳超にして脂に乗る劇団が、2年ぶり、待望の新作を上演する。その脚本を請け負うのがケラリーノ・サンドロヴィッチ(以下、KERA)。ナンセンス・コメディを起点にさまざまなテイストの作劇に挑みながら、それでも“KERAらしさ”の刻印を残してきた稀代のストーリーテラーだ。

「一昨年の『船上のピクニック』を観て、楽屋で蜷川さんに“素晴らしかったです”と感想を伝えたら、その場で“じゃあ書く? 書いてくれる?”と。なんとなく“ああ……はい”と答えたんですが、“世界のニナガワ”が、こんな軽い感じで仕事を決めるんだと驚きましたね(笑)」
KERAは現在46歳。蜷川とは2まわり以上、年齢が離れており、今回が初タッグとなる。

「5年前くらいからかな、挨拶を交わすだけでなく、対談なんかでよく話をさせてもらうようになりました。もちろん僕は昔から蜷川さんの舞台を拝見していましたし、昔の日本映画が好きなので、若き日の俳優としての蜷川さんも存じていましたけど。演出家としての蜷川さんの印象は、作家性云々というより、まずエネルギーのすごさですね。年に10本近い舞台を手がけて、映画も撮って、それなのに僕ら下の世代にも普通にライバル心をもっている。でも何より信用できると思うのは、半年位前につくった自分の舞台を“あれは失敗作だった”とはっきり言うところ。僕自身も多作だからわかるんですけど、精一杯やったけど評判が悪くて、自分も悔いが残っている作品があったとして、でもそこで止まってはられないんですよ。物理的なスケジュールの問題もあるけど、そうやって自分を切り替えて進むことが、先に行くためのコツと言うか。それを知っている人とは仕事がしやすいと思う」

現在執筆中の『アンドウ家の一夜』は、恩師の危篤を聞いたかつての教え子たちが、今はポルトガルにある彼の家に集まり、約50年ぶりに再会するところから始まる。ふだん書いている作品がほとんど群像劇で、これまでの最高は35人と、書き分けは得意なKERAだが、それは30歳以下の若い役者のための舞台だった。42人のゴールド・シアターは、人数は新記録、年齢層は真逆のベクトルへの挑戦となる。

「正直、自分でも想像がつかない人数です。ゴールド・シアターの皆

さんともお会いしましたが、さすがに全員の情報はインプットしきれませんでした(笑)。でも、自己紹介をしている人より、それを聞いている時の他のメンバーの表情や様子がすごく興味深かった。技術的なことは『船上のピクニック』を観ていますから、まったく心配していません。むしろ、よくあれだけナチュラルに岩松(了)さんのせりふを言えるな、と感心したくらいなので」

以前、微妙な間の取り方で笑いが生まれるKERAの脚本を「コメディが苦手な俺がちゃんと演出できるかな」と話していた蜷川。今回の書き下ろしに関しては、「最初の頃に“シリアスな内容がいい”という話も聞いたんですけど、いつの間にか立ち消えになって。こっちが“いいのかな?”と思うくらい、何のリクエストもありません」とのこと。「蜷川さんもゴールド・シアターも、効率的でないものに肯定的だと僕は思っているので、自由に書かせてもらいます」と意欲を見せた。

Profile

ケラリーノ・サンドロヴィッチ

東京都出身。1982年、ニューウェーブ・バンド・有頂天を結成。並行して85年に劇団「健康」を旗揚げ、演劇活動を開始する。92年の解散後、翌93年に「ナイロン100℃」を始動。99年には「フロズン・ビーチ」で第43回岸田國士戯曲賞を受賞。以後、受賞多数。近年は映像分野でも活躍。近作にKERA・MAP#005「あれから」、ナイロン100℃公演「神様とその他の変種」。映画「罪とか罰とか」。



●●●● PLAY ●●●●

さいたまゴールド・シアター 第3回公演

『アンドウ家の一夜』

【日時】6月18日(木)～7月1日(水) 全12公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【作】ケラリーノ・サンドロヴィッチ 【演出】蜷川幸雄 【出演】さいたまゴールド・シアター

【チケット(税込)】好評発売中

一般:3,000円 メンバーズ:2,700円

6月	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	7月 1
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
14:00					休				休					
18:30					演									

REPORT

さいたまゴールド・シアター初遠征レポート

より広く、多くの観客にアピール!



© 石川純

昨年上演した『95kgと97kgのあいだ』が「フェスティバル/トーキョー 09春」に招へいされ、初の外部公演を行った。会場は、廃校となった中学校の体育館を転用した東京都豊島区のにしすがも創造舎。蜷川芸術監督は「西巣鴨までゴールド・シアターのみんながたどりつけるか心配」と話していたが、もちろん杞憂、参加作品の中でも一際注目を集めるなか、3月18日の初日を迎えた。

ゴールド・シアターと若き NINAGAWA STUDIO の、世代間の伝承という蜷川演出の意図もあって、合わせて81人の出演者が60～70年代の「あの時代」を検証する。特に日本の政治の季節から急激に衰退していく70年代を何らかの形で通過してきたゴールド・シアターのメンバーにとって、その時代を語るくだりは圧倒的な存在感を示し、初めてゴールド・シアターの舞台に出会った東京の観客には衝撃が大きかったようだ。

まさに“再演以上”と記されたチラシ以上の熱気に満ちた舞台は、フェスティバル最終日の29日まで繰り広げられた。

44
passer

さいたまゴールド・シアターを立ち上げ、オーディションによる若き主演女優2人による『ガラスの仮面』を成功させた蜷川幸雄の次の企みは、若手俳優との出会い、オーディションを経て選ばれた44人の若者と世代を超えた作品づくりがスタートした。

“若いチカラ”、いよいよ始動

文=徳永京子 [演劇ライター]

集団にあわせて ルールを決めていく

蜷川幸雄の口からはっきりと「若い俳優を育てたい」と聞いたのは昨年の初夏と記憶している。『ガラスの仮面』の準備中、同作についてインタビューした際、問わず語りでその話は始まった。いわく、ヒロイン役のオーディションで多勢の若い女性と会い、また、同作の劇団員役を演じる若い俳優に稽古をつけて、今の若者に足りないものを実感したのだと言う。「育ってきた時代と環境なんだろうけど、あまりにも他人とかかわらないし、外部のことを知らない。自分を取り囲む小さな世界で完結してしまっているんだな。演劇をやる人間としては致命的な欠点だよ。海外には、乱暴で強引だけど人を引き付ける魅力的な若い俳優がたくさんいる。このままでは日本は、大きな物語を演じられる俳優、世界に通じる俳優のいない国になってしまう。でもそれは、演劇について上の世代が教えてこなかった責任も一部ある。新劇からスタートしてアングラ、商業演劇、翻訳劇いろんな道を通ってきた



自分がその経験を伝えながら一緒に舞台をつくることで、その空白が少しでも埋められるかもしれないと思うんだ」

何年計画かで進められる話だろうというこちらの予想に反し、行動派・蜷川の動きは早かった。「若手だけの集団をつくるので人材を募集する」というチラシを冬には各劇場で配布、最終的には1200人を超す応募者が集まったオーディションは2月初旬には最終段階に突入。そして3月3日、合格者の初顔合わせが、彩の国さいたま芸術劇場の稽古場で行われた。

実はこのプロジェクト、定員はもちろん、最終的なビジョンや具体的な授業内容、さらにはネーミングも一切決めないままスタートした。そこには「才能のある若者がいたら採りたいし、どんな授業が必要かは集まった顔ぶれによって変わってくるはず。あらかじめ決めたルールに集団を合わせるのではなく、集団に合わせてルールを決めていきたい。埼玉県の理解と協力を得てやっていくことだけど、だからこそ四角四面にならず、お役所らしからぬフレキシブルな方法を実行するのは、とても意義がある」という蜷川の強い要望が反映されていた。

そんな恵まれた環境を晴れて手にしたのは、男女合わせて44人の若者。どこの劇団でも女性が多いことが一般的だが、今回に関しては男性27名、女性17名と、男性がほぼ2倍。しかも審査後、蜷川が「もっとひ弱な連中が集まるかと覚悟していたけど、男女ともに予想外に骨太なヤツらが揃ったね」と嬉しそうに驚いた存在感のある面々だ。

10月公演に向けて 始めの一步

事実、自己紹介でほとんど全員が「緊張している」と言いつつ、声の小さな人やうつむく人はおらず、オープンな空気がすでにある。椅子をぐるりと並べたあと円陣の一端に座った蜷川も“先生”と言うより“先輩”という呼び方が似合う柔らかなトーンで挨拶した。

「今の日本で俳優として食べていくにはほとんどの場合、芸能プロダクションに所属することが前提にある。この擬似集団はそれに対する挑戦なんだ。公共の劇場がいい俳優を育て、適材適所に配した舞台を日本でつくれないか。知名度のある俳優がいなくても成立する演劇の集団はできないか。その可能性を君らと探っていきたい。率で言えば、本当に凄いヤツはこれの中で2、3人だろうが、それでも成立する奇跡の集団が生まれることが演劇にはあるんだよ。俺はスタニスラフスキーもブレヒトも勉強したし、アングラも翻訳劇もやってきた。ひと通りのことは経験しているわけで、（これからプロの俳優になろうという）君らには手頃な存在(笑)。ここで学んでおけばどこに行っても自立できる、クリエイティブな俳優になれる場所にしたい」

この集団で唯一、事前に決まっていたのは、10月に第1回公演として『真田風雲録』（作：福田善之）を上演することだけ。『真田風雲録』は、真田幸村や猿飛佐助が登場する時代劇でありながら、青春群像劇でもある傑作戯曲。蜷川も認めた骨太な若手俳優たちの初お目見えとしては最適な題材と言え、今から期待が募る。



稽古場で蜷川幸雄という観客のために、今日は良い芝居をしてやろうという勝負みたいな感じです。(大竹しのぶ)

台本を1回読んで覚える集中力

蜷川(以降N) 今日のお客様、大竹しのぶさんは本当に優れた女優さんです。今、僕も教えている桐朋学園で、大竹さんは演劇を学びましたが、大竹さんの上級生で今はスポーツキャスターの長田渚さんから話を聞いたことがあります。エチュード(演技実習)で大竹さんが作品を発表する時になると、長田さんたちは自分の授業を抜け出して大竹さんの演技を見に行ったという話を聞いて、やはり若い時からすごかったのだと思いました。その天才的な女優である大竹しのぶさんをお呼びします。

大竹(以降O) こんにちは、大竹しのぶです(拍手)。

N 遠路はるばるよく来ていただきました。

O 遠路だなんて(笑い)、私はもっと遠い埼玉の入間郡毛呂山町に住んでいました。父が越生高校の教師でしたから。

N 埼玉県には縁があるんだ、僕は川口だから県人会ですね。早速ですが、大竹さんはものすごく台詞を覚えるのが早くて、1回読むと覚えるという噂があります。本当ですか？

O 我ながらすごいと思ったのは、テレビの台本を駐車場からリハーサルルームに行く間で覚えたことがあります。すごく集中して、「ここで覚えなければだめ」という時は、集中力が出て。

N それって、それまで台詞を覚えていなかったということ(笑い)。でも、集中力なんだよね。

O あと図々しさです。真面目な人は「もう1回やらずにちゃ」と思うから。性格によりますね。蜷川さんは覚えるの早いですか？

N 全然ダメ。僕は真面目で不器用、頭でっかちで。

O それは役者さんの時ですよ、演出家としては？

N 演出家としては、やっぱり集中力だね。

O 蜷川さんの稽古では、他の演出家と比べようにならないくらい全員が集中します。いい緊張感、あの稽古場のレベルはすごいですよね。しかも稽古初日から。

N 「さあ、いくぞいくぞ。さあ行こう！」って、自分にも気合いを入れてるんだ。

O 「やれー！」みたいな(笑い)。自分は演出家のプロで、あなた達は役者としてプロなんだから、稽古場に来た時はそれを100%見せる、というきちんとした約束事があります。私が思ったのは、稽古場で蜷川幸雄という観客のために今日は良い芝居をしてやろうという勝負みたいな感じです。

N 大竹さんみたいにうまい俳優さんとやる時は楽しい。『王女メディア』の稽古では、登場の時の演技が普通の大竹さんだったので、「そんなのは普通、できるでしょ、もっとすごい大竹さん見せてよ」と言ったら、次の瞬間、全然違う大竹さんが見られた。

(スクリーンに『王女メディア』の映像が映される。客席に背を向け



て舞台に座り込んでスクリーンに見入る2人)

O 自分のお芝居を映像で見るのは恥ずかしいですね。でもいい舞台でしたね。

N メディアはずっと水の中にいて、男たちは権力の代表のようで、水の中にほとんど入らない。そういう構造で、「これを外国に持っていったら衝撃を与えるだろうな」と思いながら、行く機会を狙っています。ジャパネスクの要素を使わないでも成立することを赤裸々に世界に示せるのだろうなあと、この作品だけは自信があります。

演じることは人の心を治せる仕事

O 『王女メディア』は、毎日演じていて幸せでした。子どもを殺す役なのに幸せで幸せで、これは一体何なんだろうと思いました。ギリシャで2500年前に書かれた戯曲ですけど、その前に一緒にいた同じギリシャ悲劇の『エレクトラ』をやる時に「ギリシャぐらい行って来いよ！」と蜷川さんに言われ、初めて役作りのために1人でギリシャに行きました。ギリシャで気づいたのは、隠れるところが何も無いこと。普通なら疲れたら木陰で休めるのですが、ギリシャは大地と太陽があるだけで何も無い。「嘘がつけないんだ」と思いました。古



代ギリシャ時代に建てられた劇場に行ったら、「ここは病院だったんです」と言われ、「なんで病院に劇場があるんですか？」と聞いたら、患者さんに「あなたは悲劇を観なさい」、「あなたは音楽を聴きなさい」と、メスを使わないでお芝居などを観せたそうです。私は人の心を治せる仕事をしているのだな、私の仕事はそれなんだと思いました。殺してやるとか、憎いということが、現代とは違ってギリシャ悲劇には開放される感じがして。だから『王女メディア』の時もすごく辛い役なのに、いつもカーテンコールが終わって楽屋に帰ると「もう1回やりたい」と言っていました。

N そうそう、大竹さんだけが「もう1回やりたい」と言って、まわりの俳優たちからは非難ごうごうだった(笑い)。

O 今でもありそうな話で、今も昔もずっと変わらないのですね。

N そういう物語を演じる時の大竹さんって何てすごいんだろうと思ったし、男性や大勢いるコロシアムを相手にがんがん言って声一つ枯れない。なおかつ、もう1回やりたいと言う。

O “化けもの”とよく言われますね(笑い)。芝居をすると全然疲れないんです。蜷川さんも元気ですね。毎日楽しそうですね、生きていることも。

N 作っているって、面白いからね。演じるのはどうなの？

O 舞台に向かっていて生きているというか、自由に息が出来る感じがですね。

共感できるから嘆きあい励ましあえる

N 僕以外の演出家ともたくさん仕事をしていて、時々悩んでいるメールをくれるね。

O 蜷川さんの舞台の時は緊張感があり、一つのものに向かっていくのですが、いつもうまくいくことばかりではなくて。いい戯曲なのになんでうまくできないんだろうという自分の中のいら立ちがあって、ちょうどその時蜷川さんと電話でお話できて、「何で、そんなところで止まっているの？ 世界を目指そうよ。僕たちはもっと上を目指そうよ」と言ってくれて、すごく救われました。時々内緒のメールをしています。

N きっとごまかせないだね。『マクベス』の海外公演の時、舞台は評判が良くて、客席の反応も良くて終わった夜、「蜷川さん、今日の芝居満足している？」と電話が掛かってきた。実は僕は満足してなくて、完ぺきに出来ていないなあと不愉快さが残っていて、案の定、大竹さんにも同じように不満があった。同じ感性をもってお互いに嗅覚が働いて共有するものがあるから、一緒に仕事が出来たり嘆きあえる。「わかった、本当のことを言うよ。うまくいってないよな」という電話を交わしたこともありました。1人でやれない仕事って辛い時があるよね。

O 戦いですね、でも自分の与えられたところは一生懸命やらなければいけないし。日本人だから日本語で日本人に見せればいいのに、なぜ外国に行くことに意味があるのか、よくわからなかったんですね。でもニューヨークの劇場に入った瞬間に、細胞が喜んでしまって、劇場を「わー」って走り回っていたのです。「なんで走っているんだよ、おばさん」って蜷川さんに言われましたけど(笑い)。その時お客さんは70%ぐらいアメリカの人で、そこで演技することが自由で本当に楽しくてという話をしたら、「そうでしょ、自分を客観的に見られるということが大事。世界の中の1人であると自分を冷たく突き放す場所って必要なだよ」と教えてくれて。

実は、来年3月にここで シェイクスピアの長いヘンリーもの(『ヘンリー六世』)で2つの役、 ジャンヌ・ダルクとマーガレットを演じていただきます。(蜷川幸雄)

N あれは古いオペラハウスのデコラティブな劇場で、しのぶちゃんが客席の中をぎゅぎゅっと言いながら子どものよう無邪気に走っていたので結構かわいいところがあるなと思いました。そんな2人の共通の歴史があり、時には嘆きあい、愚痴をこぼしあい、励まし合っている仲です。

歌、歌う？

O えっ、いきなり？ 聞いてませんよ(客席から拍手)。

N 歌も結構うまいんですよ。コンサートもやっているんですよ。

O 時々。今年も7月ごろにやります。じゃあ、『ヨイトマケの唄』を。

N 美輪明宏さんだ。

(立ち上がり、大きく一呼吸して、アカペラで『ヨイトマケの唄』を歌い始める大竹さん。照明がスポットライトに変わり、途中で感極まって涙する場面もあって、客席もし〜んと静まりかえって聴き入る。フルコーラスで5分以上、歌い終わって、ちょっと間をおいて盛大な拍手、鳴りやまない)

N 歌もうまいけれど、集中力もすごいね。感動的だ(またも拍手)。

O いきなり芝居の空間になっちゃったみたいで、すごくうれしかったです。

N 集中力があるんだね。

O お客さんがちゃんと集中してくれていたからです。一緒の世界で、一緒に作れるというのがテレビや映画とは違う。すごく世界が共有出来る。

N 歌い始めて2秒ぐらいで役に入っちゃうんだね。一挙にフォーカスに入るの？

O そうですね、音楽は一小節バイオリンが鳴ったらメロディーにのせてもらえる。芝居もそう。

N やっぱりすごいや、アカペラだし、すごい。人生でそう何回もこういうことって出会わないですよ。今日のお客さんは最高にいい曲を聴くことができた。僕も厳肅な気持ちになった、いいねえ。大竹さんとは息が合って同じ呼吸をしながら仕事をしていける、実に稀な女優さんです。その大竹さんに、来年3月ここでシェイクスピアの長いヘンリーもの(『ヘンリー六世』)で2つの役、ジャンヌ・ダルクとマーガレットを演じていただきます(拍手)。

才能を見せられると早く仕事をしたくなります。大竹さんは、こう動こうとかは稽古場で全部考えるの？

O 考えていないです。自然に動いてみる。ここでこう動くというのは、相手がいないとわからないから、全然考えないです。声もあまり出さないから稽古場で自分の声に「えっ、私こんな声出すんだ」と思う時があります。台本にも何も書いていません。

N 書き込みもないんだ。映画の場合、ワンシーンを全部通す監督もいれば、ワンカットずつの監督もいますよね。そういう場合もぜ

んぜん困ることはないんだ。

O ぜんぜん何も考えないで、「はい」みたいな感じで。

何度も演じたいのはランチとメディア

N 年齢を重ねてくると、出来ない役って出てくる場合があるじゃない。例えば「私、ジュリエット出来なくなったわ」と断念する場合って、ある？

O あえて、この役をやりたいというのがないんです。『欲望という名の電車』のランチも、メディア、レディ・マクベスも演じたから、すごく幸せですね。

N 『肝っ玉おっ母とその子供たち』という芝居もやりましたね。おっ母さんが戦場を駆けめぐって商売をしている女の話なのですが、あれは自分よりも上の年齢だったけど、実年齢より上の役を演じるのは単に芝居が面白いから？ 老け役を演じるのも挑戦なの？

O 挑戦とか思わないで、面白い役だけ演じますね。やはり何度も演じたいのはランチとメディアです。

N ラunchは『欲望という名の電車』の主人公で僕が演出して、とても良くて再演しろと周りから言われているんだけど、もうちょっと経って大竹さんが熟してからと、わざと僕が引き延ばしています。今後のスケジュールは何ですか？

O 6月に串田和美さん演出の『桜姫——現代劇』をやり、8月には去年ロンドンバージョンで野田秀樹さんが作・演出した『The Diver (ザ・ダイバー)』を日本バージョンでやります、嫉妬に狂う女の役で。その間、7月に東京を始め全国でコンサートをやり、秋にミュージカル『グレイ・ガーデンズ』に挑戦します。

N やはり、歌うことが好きなんだね。

O 演劇は2時間とか、長い時間を共有して拍手をもらえるけれど、歌って歳をとった人でも手拍子できる心がすぐに沸いてくるので、ストレートで楽しいです。

N 本当に早く一緒に稽古したいなあ。今日はありがとう。



大竹しのぶ おおたけ しのぶ
東京都出身。1975年に映画『青春の門〜筑豊篇』でデビュー。同年、朝の連続テレビ小説『水色の時』に出演し、国民的ヒロインとなる。以後、その抜きん出た演技力と圧倒的な存在感から世代を超えた支持を受け続けており、舞台、映画、テレビ等で幅広く活躍、主要な演劇賞を多数受賞している。蜷川演出作品では、『メディア』『マクベス』『エレクトラ』『パンドラの鐘』に出演。主な出演作は他に、映画『石内尋常高等小学校花は散れども』『鉄道員』『G0』、舞台『スウィーニー・トッド』『太鼓たたいて笛ふいて』など。待望のコンサートが7月18日、19日に恵比寿ガーデンホールで上演。最新情報は、www.shinobu-otake.com。

Photo:大原狩行 構成:中田満之

ヤン・ファール、抵抗のためのオルギア(饗宴)

今年1月のサンチアゴ(チリ)を皮切りに、本拠地アントワープ(ベルギー)をはじめヨーロッパ各地を巡演、大きな反響を呼んだ新作『寛容のオルギア』がいよいよ彩の国で、そのペールを脱ぐ。



©Malou Swinnen

文=長谷川祐子 [東京都現代美術館チーフキュレーター]

ヤン・ファールは従来演劇を living material、アートを non-living material として、前者は時代とともに生き、後者は時代を超える永遠性をもつものとして語ってきた。観客と深く、しかしアクチャルにコミュニケーションしたいと願う彼は、近年、過去に生み出してきたアート作品を、演劇的な体験と融合させようとしているかに見える。例えば、最初アントワープの国立美術館でフランドル絵画のコレクションと自作を共に展示した試みは、2008年、ルーブル美術館のフランドル絵画の展示部門において、見事な展開を見せた。そこでは「歴史」に対して、現在を生きる彼の存在、思考、感性が、見事な解釈と対話を形成していた。ルーベンスによる大作、饗宴を主題とした絵画の部屋では、仮装用のすっぽりとかぶるマスクのような鳥たちの頭がテーブルに並べられていた。また別の部屋のガラスケースの中にパーティ用の三角帽子をつけられ横たわる金色の山羊が展示されており、その下に白砂のようにしずかに敷き詰められていたのは人骨の粉だった。



Orgy of Tolerance

Profile

ヤン・ファール Jan Fabre

1958年、アントワープ生まれ。同時代の最も革新的かつ多才なアーティストの一人。25年間にわたり、パフォーマンス・アーティスト、演出家、振付家、作家、ビジュアル・アーティストとして作品を創作。84年に発表した『劇的狂気の力』は、現代演劇の先端に位置する前衛作品として注目を集め、日本をはじめ世界各国で上演された。80年代より一貫して人間の肉体を探索の対象とし、当劇場で上演された『わたしは血』、『主役の男が女である時』、『死の天使』等、数々の話題作を発表してきた。2005年、アヴィニョン演劇祭にアソシエイト・アーティストとして招かれ、また2007年にはザルツブルク音楽祭の招聘により『寛容のためのレクイエム』を上演。2008年にはパリのルーヴル美術館で美術家としての大々的な個展が開催されるなど、ジャンルを超えて世界的な注目を浴び続ける稀有なアーティスト。

●●●● DANCE ●●●●

ヤン・ファール『寛容のオルギア』

【日時】6月26日(金) 開演 19:30 27日(土) 開演 16:00
28日(日) 開演 16:00

※各日も公演終了後、ヤン・ファールによるポスト・パフォーマンス・トークを行います。

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『寛容のオルギア Orgy of Tolerance』(2009年1月初演)

【演出・振付・舞台美術】ヤン・ファール 【出演】ダンサー ミュージシャン 俳優 9名

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S 席 7,000円 / A 席 5,000円 / 学生 A 席 3,000円

メンバーズ:S 席 6,300円 / A 席 4,500円

※この作品は出演者が煙草を吸います。その煙草の煙と匂いが客席に降りる可能性があります。予めご了承ください。

饗宴―狂宴のテーマは、ファールの作品において、生のカタルシスと死と隣り合わせの警句をもって表現されてきた。そこではあらゆる価値が過剰な表現で示され、ごたまぜの料理のように供され、悪ふざけをする人々のはめはずしはカタルシスを生み出す。今回上演されるパフォーマンス、『寛容のオルギア』においては、歴史的な意匠や美学が消え、より卑俗で現実的なものが要素として選ばれている。情報、消費の過剰、生のリアリテイの喪失、欲望のバーチャル化、信仰の欠落……現在の問題が山積みになって供されているにもかかわらず、人々はそれを真剣にとらえようとせず、自宅のソファで、与えられた快適な欲望のサイクルを享受する。エクスタシーを得ることのないマスターベーション、ショッピングカートにエンドレスにほうりこまれる商品たち。

身体の中で最もセクシーな場所

より観客を演劇的な空間に巻き込む試みは、昨年、オーストリアのブレゲンツ美術館で「地下室から屋根裏部屋へ、足から脳」と題された展覧会において実現された。美術館の5つのフロアは頭、心臓、腹、性器、足と身体の部位になぞらえられ、5つの空間全体は、身体あるいは1軒の家というメタ構造として、その中を歩く観客を時空間的な物語の中に巻き込む形をとる。観客はファールの巨大な身体の中を巡る事によって、至る所にしかけられた創造力を刺激し、既成概念をぶっとばす爆弾を踏んでいく。

あたかもアーティストとしての最大の武器はその脳だともいわんばかりに、地下に爆弾(弾頭)や薬莢とともに脳のホルマリン漬けの容器が置かれている。それは戦略を練る為のブレインの象徴でもある。そして天井から下がっている子供のような小さな足は、脳の神経繊維と同じ解剖学モデルの表面でつくられている。「身体の中で最もセクシーな場所」というコンセプトはもっともセンシティブな部位が足となって露出されていることにも反映されている。

その上の1階の展示、「fountain」、一定の時間ごとに墓碑の中に横たわるファールのペニスから精液が勢いよく噴水のようにふきあげられるこの彫刻は、性的な衝動や欲望がその身体的な部位で象徴されるものだった時代を表している。2階はブラジルタマムシで覆ったアントワープの王宮の天井の一部がはぎとられたように逆さに床に置かれ、そこに裸体の黒人が横たわっている。豪奢と植民地の奴隷の組み合わせという圧倒的なアイロニー。ガラスの骨を組み上げた台の上に置かれたガラスの心臓、男と女が対になっており、私たちの身体のもろさとこれをささえている構造を示している。下階から上階への移行は彼自身の成熟の過程を示している。最上階は頭部、脳であり、「脳の壱壕の中にいる小人としてのアーティスト」と題されたこの作品空間は、展示室の床をうめつくして1mほどの高さに土を盛り、壱壕がクリークのように掘られている。壱壕の脈は中央に向かって集中しており、真ん中に黒いコートにジーンズのファールに似た男―小人が立ち、半分土に埋まった巨人の頭の中をショベルで発掘調査しようとしている。

巨人の頭部はスキンレスで頭蓋骨がむきだしになっており、顔のほおからは筋肉が見えている。左耳の上部あたりの一角を小人は無表情で淡々と掘っており、銀色のショベルの先は脳の中身の神経繊維に到達している。オーストリア軍の監修を受けて、2つの大戦の壱壕をモデルにつくったという、壱壕の通路は砂袋と木が組み合わせられた簡素でがっしりとしたつくりで、戦いの現場の生々しさを伝えている。

いまだ無限の謎を秘めた未知の大陸である脳を調査しようとする小人、であり戦う兵士―それは未知に向かって探究を続けるファールの姿そのものである。彼の「Brain is the most sexy part of the body」という表現は彼にとっての「官能」がこの感情や知恵のすべてをつかさどる謎めいた小宇宙を意味しており、最高の価値であることを示している。

現代人の警告を携える優しい刺客

『寛容のオルギア』の登場人物たちは彼とは真逆の存在である。ファールの起こす馬鹿さわざは、消費と現実感の喪失におぼれる我々の現実の鏡でありながら、これに抵抗し続ける彼の『饗宴』である。ステージに現れるキリストやブリューゲルの寓意的な絵画の登場人物のような老人たち、身体を極限まで酷使するパフォーマンスなど豊かな言語によって供されるこの饗宴は、我々への警告であり、優しい刺客なのである。

dancetoday 2009

三者三様の熱いメッセージが、観客の感性を刺激する

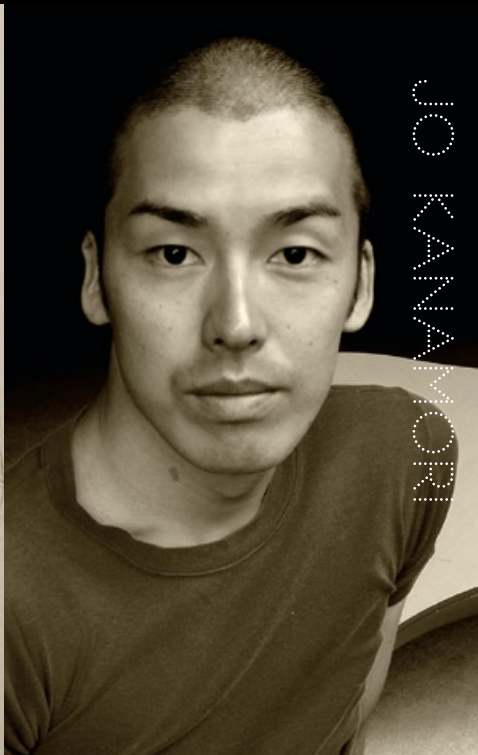
日本のダンス界の今を担うダンサー・振付家3組が、彩の国にこの秋結集。

それぞれの思い、カラダを張った熱いメッセージが続々と届き、来るべき公演への決意と覚悟がうかがい知れる。

三者三様、トリプル・ビルならではの舞台が待ち遠しい。



©NOMO



JO KANAMARU



SHINTARO OSE



©ヒロ・オオタ



© 篠山紀信 Alessio Silvestrin 振付「二」より



©A.Groeschel

廣田あつ子×中村恩恵

おたがいの杯を満たし合いなさい。しかし、同じひとつの杯からは飲まないように。なぜなら、神殿の柱はそれぞれ離れて立ち、柱の木と杉の木は、おたがいの陰には育たないのですから。カール・ジブラン預言者

unit-Cyan ユニット・シアン

金森穰(新潟市民芸術文化会館・舞踊部門芸術監督／Noism 芸術監督) 井関佐和子(Noism メンバー) 1998年秋、金森(22歳) 井関(18歳) フランス〜スイス間にて電話で会話。1999年夏、イスラエルにて初対面。2000年春、オランダにて交際開始。2001年冬、スウェーデンにて初共演。2002年夏、日本へ帰国。2003年冬、東京にて初振付。2004年春、新潟へ移住 Noism 設立。2007年7月21日午前7時33分入籍。2009年夏、unit-Cyan 立ち上げ。公私混同、虚実混同、自作自演を模索開始。

C/Ompany 大植真太郎 柳本雅寛 平原慎太郎

「名もなき名の下にゆだねあって」ありそうでなくもない、なんとも気楽なスタンスである。しかしその裏を返せば、空間、時間、身体どれをとっても自分達のおよぶ力の範囲に限られた制約の中にあって、初めて自分の不自由さを感じその中から出発しようという試みがある。それは遠い昔誰もが経験した二足歩行への挑戦とにている。無意識に、他者の言葉の意味もわからず、憶りる事なく、起ち前に進む、親の広げた両腕の範囲内でそして、....。

Triple Bill interview

『trio ～《シアンの告白》より抜粋』 unit-Cyan (金森穰 井関佐和子)

——『trio ～《シアンの告白》』(今回は抜粋版を上演)というタイトルですが、このタイトルにはどのような思いが込められているのでしょうか。

[金森] 2人の人間が関係性を持つ時、そこには必ず第3者がいます。僕と彼女の僕と彼女。デュオであってカトルであって、主体の位置でトリオであるという事。そんな2人の自作自演は、虚実入り乱れる我々の＝Cyanの告白となるのでしょうか。そして本当の第3者はそれを見つめる観客なのかもしれません。

——このデュオで観客に何を一番伝えたいとお考えですか。

[金森] 8年間を共に生きた2人にしか生み出せない表現であって、自作自演でなければ生み出せない表現です。今回の作品はお見せするための作品というよりも、我々自身のための作品といえるかもしれません。だから何か

を伝えたいというよりも、我々が己と向き合う行為のうちに、観客の皆さんに何かが伝わってしまうんだろうと思います。

——通常はNoismの芸術監督としてグループを芸術的、制作的にリードする役割を担っている金森さんですが、それと平行して井関佐和子さんと2人で取り組むunit-Cyanではどのような展開を目論んでいますか。

[金森] Noismでは劇場文化の事、舞踊芸術の専門性、新潟の文化等、社会的な事を考えて活動しています。でもこのユニットでは社会的な事は無視して無責任に、極めて自己中心的に、公私混同虚実混同、芸術と言う大義名分を遊べたらと考えています。そしてこのユニットでの活動が、Noismの新たな展開、あるいは発展に繋がると信じています。

『Le droit de rêver 夢みる権利』 廣田あつ子×中村恩恵

——『Le droit de rêver 夢みる権利』というタイトルにはどのような思いを込めたのでしょうか。また廣田さんと踊るこのデュオでは観客にどのようなことを伝えたいと考えていますか。

[中村] 今回の作品は、西行上人の生き方、そして彼が作った詩にインスピレーションを得ています。時代の様式にとらわれずに、自己の精神の必要と向き合ってきた人が残したものが、脈々と後世の精神文化の中で生き続けていることに感動を覚えます。『Le droit de rêver 夢みる権利』はフランスの哲学界の巨星、G. バシェラルの遺稿集のタイトルです。東西の域を超え、彼の思想もまた今を生きる私たちに多くの知恵と靈感を与えてくれていると思います。その本の最後の言葉を書き写します。

——おまえの哲学者としての運命は、自己の内的矛盾のうちに光明を見出すことなのか？ おまえはおまえの存在を、そのために、動揺、不確実によって定義するよう宣告されているのか？ おまえはおまえの案内者、慰め手を、夜の暗闇のなかに探し求めねばならないのか？ 〈中略〉きみは約束を守らなかった……きみはわたしに光と慰めとを約束しておきながら、いまわれわれのために夜と苦悩とを描いている。私は答える、＜民衆の子、わが友よ！ ほんの小さな逸話があるが聞いてくれ。孤独な二つの魂がこの世で出会う。片方の魂が嘆きを訴え、慰めをあたえてくれるよう相手に頼む。すると相手は優しく身を寄せてささやいたという、私にとってもいまは夜なのだ＞。これはひとつの慰めではないだろうか？

廣田さんとの共演の中で、このような真の対話が出来ることを願っています。求心的に生きた人達の遺業が後世の人々の心と繋がってきたように、演者の個人的な論点に起点のある対話の輪が普遍的な価値あるものとなつて、見る人々の心を繋ぐものとなっていくことを心から願っています。

『イキ、シ、タイ』 C/Ompany (大植真太郎 柳本雅寛 平原慎太郎)

——この作品のタイトルにはどのような思いがこめられているのでしょうか？

[大植] 一つひとつ音として聞くと結構な数の訓読みが浮かび上がります。仮につなげて読むとこれまたかなりの抽象的な意味が浮び、そして浮かび上がる数々のバラバラなイメージをパズルのように一つまたひとつはめてゆく。想像範囲は個々バラバラでしょうがあえて見る側にも「ピース探し」の一端を委ねることで、パズルな作品はこの日ひとつのピースとなり、あなた方の日常にはまり込む。仮に作品がどう見てもバラバラで「なんじゃこれは？」となったとしても、日常ではうまりきらない、または言葉では言いようのない無意識な部分を！って思ってます。

——作品のテーマやこのトリオで試みられることをきかせてください。

[大植] 制作ノート「KAKERA」から質問にあてはまるようなモノを断片的に

ですが抜粋します。

『身体記憶、忘却＝オートマ』初めての二足歩行の試み、無意識の中での痛みが体のどこかに記憶されているから我々は倒れるということにみなみならぬ恐怖を感じる。しかしその崩しながら動くという行為は合理的ではななくも美しい。

『何故人間は立っていられるのか？』立ってるでしょ、そしたら自然と体が前の方に倒れてくのね、それを「ハーツ」で息はいて直立までって、思ってたらず今度後ろに倒れてくのね、そしたら「スーツ」吸い込み、その繰り返し、これね、みんな意識なんかせずやってる訳、呼吸なんて意識してしないから普通は、大概の人がそんな原理嘘だと思ふのよ、けどね「それじゃ、息止めてみてて。」保証するよ、絶対に倒れる。

●●●● DANCE ●●●●

dancetoday2009

[日時] 9月11日(金) 開演 19:30 12日(土) 開演 15:00 13日(日) 開演 15:00

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

[演目・振付・出演]

『trio ～《シアンの告白》より抜粋』 unit-Cyan (金森穰 井関佐和子)

『Le droit de rêver 夢みる権利』 廣田あつ子×中村恩恵

『イキ、シ、タイ』 C/Ompany (大植真太郎 柳本雅寛 平原慎太郎)

[チケット(税込)] 一般:5,000円 メンバース:4,500円

[発売日] 一般:5月30日(土) メンバース:5月23日(土)

Piano Etoile Series vol.9

Alexander
Gavrylyuk

若きヴィルトゥオーゾの「いま」を聴く

“20世紀後半最高の16歳”と、2000年浜松国際ピアノコンクールで
中村紘子審査委員長に絶賛されたアレクサンダー・ガヴリリュク。

今なお進化し続ける若きヴィルトゥオーゾの3年ぶり、彩の国リサイタルでの
豪華プログラムに期待が高まる。

interview

取材・文＝片桐卓也〔音楽ライター〕

驚異の10代として音楽界に衝撃を与えたのは2000年の第4回浜松国際ピアノコンクールの時のこと。その後、交通事故で重傷を負い再起も危ぶまれるなど、困難な時期も経験したが、いまアレクサンダー・ガヴリリュクは高い完成度をもった若手ピアニストとして世界から引く手あまたの活躍を続けている。

「ヨーロッパに本拠地を移しましたが、相変わらずオーストラリアでの演奏会も多く、ゆっくり家にいる時間はありません」

1984年生まれだから、まだ20代半ばなのだが、ガヴリリュクの落ち着いた話しぶりは、すでに大家の雰囲気を感じさせる。彩の国の音楽ホールに登場するのは4回目だが、来日するたびに、その音楽性が深まって行くのを感じるだけに、今回も期待が高まる。

「プログラムの構成は、いつものように古典派から始まり、ロマン派を通過して現代に近い時代まで、時間の流れに沿って展開していくというスタイルです」

その最初に置かれたのはベートーヴェンの「悲愴」ソナタである。「ベートーヴェンの音楽は時間をかけてじっくりと取り組んでいきたいと思っています。この『悲愴』は、自分の中で現在のところ最も身近に感じるベートーヴェンのソナタです。そのタイトルのように悲劇的な内容をもっていますし、大変な精神的格闘を感じさせる作品です。しかし、同時に、大きな愛や調和を感じさせる作品でもあります。特に第2楽章に感じられるのは穏やかな愛情であり、全体に満ちている調和は、この時期のベートーヴェンが非常に音楽的に充実していたことを示していると思います。呈示部の繰り返しに関しては、まだ思案中。本番を楽しみにしててください(笑)」

続くショパンだが、2003年にはオール・ショパン・プログラムを演奏したこともあった。

「ショパンの音楽は、自分の中でもっと熟成が必要だと思っています。幸いなことに、2003年以降、ポーランド出身の友人も増えましたし、ショパンの音楽を生んだ風土についての理解も増えてきましたので、今後もっと深く彼の音楽に迫ることができるでしょう」

前半の締めくくりに華麗なリストを選んだ後、後半はストラヴィンスキーから。

「この《ペトルーシュカ》という作品は、僕自身が大好きな作品であるだけでなく、ロシアが生んだピアノ曲としても最高傑作だと思っています。その音楽のもつ魅力、物語の背景となっている世界、祭りの雰囲気や人々の描写など、見事に表現されています。もちろんオリジナルの管弦楽やバレエを参考にして、ピアノ版の演奏を考えています」



同じロシアでもラフマニノフの音楽はまた独自の色彩感をもっている。

「ラフマニノフの音楽の根底には、やはりロシア正教の音楽やラフマニノフの好きだった合唱の世界が感じられますね。前奏曲集は全部で24曲が書かれていましたが、その中からいくつかの作品を選んで並べ、自分なりに構成してひとつの作品のように仕立てるのが好きです。今回の選曲も、ひとつの音楽的な流れを意識しています」

最後に置かれたのは、ホロヴィッツ編曲のビゼー《カルメン幻想曲》だ。「やはり演奏会の最後には、何かしら、心を沸き立たせるような作品が必要だと思います。この曲はけっして演奏会の最初には来ない(笑)。でも、最後に置くと、非常にいろいろな事を感じてもらえる作品だと思います。もちろんテクニク的に非常に難しい作品で、聴きごたえがあると思いますよ」

常に笑顔を決やらず、丁寧に説明を続けるガヴリリュク。

「この音楽ホールは非常に演奏のしやすいホールです。聴衆とも非常に近いので、直接に反応が分かって、共に演奏会を作り上げて行くような雰囲気がありますね。再び訪れるのが楽しみです」

どんな色彩がピアノから放出され、ホールの中に溢れるのか、想像するだけでワクワクしてしまう演奏会だ。

Profile

アレクサンダー・ガヴリリュク

1984年ウクライナ生まれ。99年ホロヴィッツ記念国際ピアノコンクール及びオーストラリア・ピアノコンクールで第1位を獲得。2000年11月に行われた第4回浜松国際ピアノコンクールでは、審査員満場一致での第1位受賞。05年アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノコンクールにて第1位及び金賞、ベストコンチェルト賞を受賞。07年の日本ツアーでは、満場総立ちの拍手を受けるなど、世界各地で多くの聴衆に感銘を与えている。

●●●● MUSIC ●●●●

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.9
アレクサンダー・ガヴリリュク ピアノ・リサイタル

【日時】6月28日(日) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第8番 ハ短調 作品13「悲愴」
ショパン:ポロネーズ第3番 イ長調 作品40-1「軍隊」
リスト:メフィスト・ワルツ第1番 (村の居酒屋での踊り) S514
ストラヴィンスキー:《ペトルーシュカ》からの3楽章
ラフマニノフ:10の前奏曲 作品23より 第1,2,5,6,7番
ビゼー (ホロヴィッツ編曲):カルメン変奏曲 ほか

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円

メンバーズ:S席3,150円

※4回セット券(Vol.9～Vol.12)

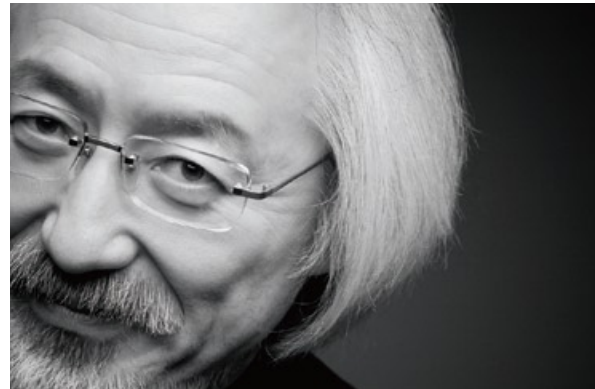
S席セット12,000円 A席セット8,500円(6月27日<土>まで販売)

記念イヤーに輝かしきヘンデルの魅力に酔う

Bach Collegium Japan

バッハ・コレギウム・ジャパン

Masaaki Suzuki cond. & org.



©Marco Borggreve

鈴木雅明率いるバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)が、20代前半の若きヘンデルが書いた教会作品に挑む。これまで接する機会の少なかった、輝きに満ちた傑作と、名手ぞろいのBCJの出会いとは必聴だ。

文=大角欣矢 [音楽学]



© 加藤英弘

今年、2009年は、ヘンデル没後250年にあたる。ヘンデルといえば最近まで、《メサイア》などオラトリオの作曲家、あるいは《水上の音楽》といった器楽の作曲家というイメージが強かった。この状況は、何も日本だけではない。確かに《メサイア》以外のオラトリオについていえば、欧米での方が上演の機会が多い。だが41曲ものオペラを残した最も偉大なバロックオペラ作曲家としてのヘンデル像となると、歴史に埋もれたも同然の縁遠い存在だったといわざるを得ない。

ところが、ここ十数年来、すっかり状況が変わってきた。ヘンデル・オペラに関する研究と再評価が世界的に進み、日本でもヘンデルのオペラが(多くの場合コンサート形式とはいえ)相次いで上演されるようになった。いわばヘンデル・ルネサンスともいべき事態が進行しつつあるのである。

しかし、ヘンデルには、残念ながらまだまだ接する機会の少ないもう一つの領域がある。それは教会音楽である。確かに、カントールだったJ. S. バッハなどと違い、劇場作曲家として活躍したヘンデルには、教会作品の数は決して多くはない。しかし、興行上のさまざまな条件に煩わされることがなかったこれらの作品には、しばしば彼の最良の成果が結実しているのである。

今回、鈴木雅明率いるバッハ・コレギウム・ジャパンが演奏する2つの詩編曲は、ヘンデルが21～22歳の頃、初めて訪れたイタリアの地で完成させたものである。どちらの曲も、合唱とオーケストラのほか、詩編112編《しもべらよ、主をたたえよ》ではソプラノ独唱が(今回は松井亜希が歌う)、詩編109編《主は、わが主にいたまいぬ》では5人の独唱者が活躍する。

詩編112編《しもべらよ……》の魅力は、何といてもソプラノ独唱にある。技巧的で長大なコロラトゥーラは、すでにハンプルクで3曲のオペラをものした若きオペラ作曲家の面影を彷彿とさせる。一方、

その第5曲《わたしたちの神、主に並ぶものがあるうか》での合唱レチタティーヴォでは、この曲の作曲年代を考えると非常に斬新な転調によって、神の存在の神秘と偉大さが讃えられる。

疑いもなくヘンデルの初期教会音楽の頂点と目されるのが、詩編109編《主は、わが主に……》である。例えば、快活な協奏曲として構想された冒頭曲《主は、わが主に》の中盤、突如グレゴリオ聖歌の朗唱旋律が響き渡る。それは、大聖堂を支える巨大な円柱のように、聴く者の心を荘厳な礼拝空間へと引き込む。第4曲《主は誓い》では、重厚で意表を突く和声進行と敏速なアレグロが交代し、劇的な瞬間を築き上げる。第5曲《わたしの言葉に従って》の二重フーガでは、対位法の大家としてのヘンデルの面目躍如たるものがある。ヴィヴァルディの《冬》を先取りしたような伴奏による第7曲《彼はその道にあって》は、キリスト受難を予告する痛ましい嘆きの音調に彩られている。もちろん、第2曲、第3曲のような優美な独唱アリアも含まれている。

これらの作品の特徴は、第一にその完成度の高さである。特にここで見られる劇的な合唱表現は、円熟期オラトリオの手法を先取りしており、ヘンデルの早熟の天才ぶりには驚くほかない。第二に、ヘンデルの進取の気性である。彼は最新のオペラと協奏曲の様式をすでに完全に自分のものとしており、この点でもバッハにかなり先んじている。

なお、今回は2曲の協奏曲も併せて演奏される。これらは、音楽の守護聖人聖チェチリアにちなんだオード《アレクサンダーの饗宴》上演の際、それに挿入する形で初演されたものである。特にオルガン協奏曲の方は、オルガンの名手として名高かったヘンデルが自ら腕前を披露するとあって、大変な呼び物となっていた。即興演奏で知られた自分の腕前を存分に発揮できるように、ヘンデルの楽譜には即興の余地がたくさん残されている。同様に即興の名手である鈴木雅明が、この曲をどのように「料理」するかも楽しみな点である。

Profile

鈴木雅明 (指揮&オルガン)

東京藝術大学作曲科卒業、同大学院オルガン科修了。スウェーリンク音楽院でチェンバロとオルガンを学ぶ。1990年バッハ・コレギウム・ジャパンを結成、海外ツアーやCD録音でも高い評価を得ている。2001年ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章、08年度芸術選奨文部科学大臣賞他、多数受賞。

松井亜希 (ソプラノ)

東京藝術大学、大学院修士課程を経て、現在博士後期課程に在籍中。第13回日仏声楽コンクール及び第16回友愛ドイツリートコンクール優勝。バロック以降のオペラ、宗教音楽、歌曲から現代音楽まで幅広いレパートリーを持つ。09年1月バッハ・コレギウム・ジャパンのカナリア諸島音楽祭公演で急速代役ソリストを務め、喝采を浴びた。

バッハ・コレギウム・ジャパン (合唱・管弦楽)

鈴木雅明が世界の第一線で活躍するオリジナル楽器のスペシャリストを揃えて1990年に結成したオーケストラと合唱団。バッハ作品を中心にバロック音楽の理想的な上演を目標に活動を行っており、近年ではヘンデルをはじめとする合唱作品・バロックオペラにも取り組んでいる。その演奏や録音は世界各地で高く評価されている。

●●●● MUSIC ●●●●

バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル没後250年記念特別プログラム

【日時】7月18日(土) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【出演】鈴木雅明 (指揮&オルガン) 松井亜希 (ソプラノ)
バッハ・コレギウム・ジャパン (合唱・管弦楽) ほか

【曲目】ヘンデル: 合奏協奏曲「アレクサンダーの饗宴〜音楽の力」HWV318
オルガン協奏曲 ト短調 作品4-1 HWV289
詩編112編《しもべらよ、主をたたえよ》HWV237
詩編109編《主は、わが主にいたまいぬ》HWV232

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席7,000円/A席6,000円/学生A席2,500円
メンバーズ:S席6,300円/A席5,400円

EVENT CALENDAR 2009.5.15-2009.7.31

5 May	
15 金	
16 土	
17 日	PLAY 源氏語り五十四帖 第49回『東屋(あずまや)』 開演 14:00 ※詳細は P.22 にて
18 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
19 火	
20 水	
21 木	
22 金	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『マルタのやさしい刺繍』 上映時間 13:00 / 15:40 / 18:50 ※詳細は P.22 にて MUSIC クリスチャン・ツィメルマン ピアノ・リサイタル 開演 19:00 ※詳細は P.22 にて
23 土	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『マルタのやさしい刺繍』 上映時間 10:00 / 13:00 / 16:00 / 19:10 ※13:00 上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。 DANCE コンドルズ 埼玉公演 2009 新作『白と黒のナイフ』 開演 15:00 / 19:00 ※詳細は P.22 にて
24 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『マルタのやさしい刺繍』 上映時間 10:00 / 13:00 / 15:30 / 18:30 DANCE コンドルズ 埼玉公演 2009 新作『白と黒のナイフ』 開演 16:00
25 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
26 火	
27 水	
28 木	MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第7回 N 響メンバーによる金管五重奏 開演 12:10 ※詳細は P.22 にて
29 金	
30 土	
31 日	
6 June	
1 月	
2 火	
3 水	臨時休館日(埼玉会館)
4 木	
5 金	
6 土	
7 日	
8 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
9 火	
10 水	臨時休館日(埼玉会館)
11 木	
12 金	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『闇の子供たち』 上映時間 14:20 / 18:20 ※詳細は P.22 にて
13 土	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『闇の子供たち』 上映時間 10:30 / 14:30 / 18:30
14 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『闇の子供たち』 上映時間 10:00 / 14:30 / 18:30 ※10:00 上映回終了後、プロデューサー椎井友紀子氏によるアフタートークがあります。
15 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
16 火	
17 水	
18 木	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 18:30 ※詳細は P.4 ～ 5 にて
19 金	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 18:30
20 土	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 14:00
21 日	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 14:00 MUSIC NHK 交響楽団 準・メルクル(指揮) 佐藤俊介(ヴァイオリン) 開演 15:00 ※詳細 P.22 にて
22 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)

23 火	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 14:00
24 水	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 14:00
25 木	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 18:30
26 金	DANCE ヤン・ファープル『寛容のオルギア』 開演 19:30 ※詳細は P.12 ～ 13 にて
27 土	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 14:00 MUSIC 光の庭ブロムナード・コンサート ～めぐり逢い～ 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ※入場無料 出演 = 小島弥享子(オルガン) 本岩孝之(カウンターテノール) 曲目 = パスティーニ:パッサカリア 変口長調 ほか DANCE ヤン・ファープル『寛容のオルギア』 開演 16:00
28 日	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 14:00 MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.9 アレクサンダー・ガヴリリュク 開演 15:00 ※詳細は P.16 ～ 17 にて DANCE ヤン・ファープル『寛容のオルギア』 開演 16:00
29 月	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 18:30
30 火	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 14:00

7 July	
1 水	PLAY さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』 開演 14:00
2 木	MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第8回 東京交響楽団メンバーによる木管五重奏+バグパイプ 開演 12:10 ※詳細は P.22 にて
3 金	
4 土	PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩享 ～彩の国落語大賞受賞者の会 立川生志 開演 16:00 ※詳細は P.22 にて
5 日	
6 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
7 火	
8 水	
9 木	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『おくりびと』 上映時間 13:40 / 19:00 ※詳細は P.21 にて
10 金	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『おくりびと』 上映時間 10:30 / 14:20 / 18:40
11 土	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『おくりびと』 上映時間 10:30 / 14:20 / 18:40
12 日	CINEMA 彩の国シネマスタジオ『おくりびと』 上映時間 10:00 / 13:50 / 17:30 ※13:50 上映回終了後、田島良一氏によるアフタートークがあります。 PLAY 源氏語り五十四帖 第50回『浮舟(うきふね)1』 開演 14:00 ※詳細は P.22 にて
13 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
14 火	
15 水	
16 木	
17 金	

18 土	PLAY 松竹大歌舞伎 開演 12:30 / 17:30 会場 = 熊谷会館 ※詳細は P.22 にて MUSIC バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル没後 250 周年記念特別プログラム 開演 15:00 ※詳細は P.18 ～ 19 にて
19 日	
20 月・祝	
21 火	
22 水	
23 木	
24 金	
25 土	MUSIC 光の庭ブロムナード・コンサート ～放浪する音～ 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ※入場無料 出演 = 小野田良子(オルガン) 高木潤一(ギター) 曲目 = ガレスピー:チュニジアの夜 ほか
26 日	TALK 蜷川幸雄公開対談シリーズ NINAGAWA 千の目 第19回 勝村政信×蜷川幸雄 開演 12:00 ※詳細は P.23 にて
27 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
28 火	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
29 水	
30 木	
31 金	

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭ブロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報(～2009.7.18)

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『おくりびと』

第81回米国アカデミー賞外国語映画賞部門賞受賞作品

納棺師—それは悲しいはずのお別れを、
やさしい愛情で満たしてくれるひと。
ユーモアと愛が織りなす感動作！

©2008 映画「おくりびと」製作委員会

チケット発売日 一般・メンバーズ:5月15日(金)

日時 = 7月9日(木) 13:40 / 19:00
10日(金) 10:30 / 14:20 / 18:40
11日(土) 10:30 / 14:20 / 18:40
12日(日) 10:00 / 13:50 / 17:30

※7/9(木)13:40 上映回、音声ガイドがつきます。イヤホン付きFM ラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。※7/12(日)13:50 上映回終了後、田島良一氏によるアフタートークがあります。

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
出演 = 本木雅弘 広末涼子 余貴美子 山崎努 ほか (2008年/日本/130分)
料金 = 一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円
※60歳以上、障がい者の方 前売/当日1,000円

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.10 三浦友理枝

ますます活躍の幅を広げている美しき日本のホープ。
繊細でロマンティシズム溢れる演奏に期待が高まります。

チケット発売日 一般:5月16日(土) ※メンバーズ発売中

日時 = 9月5日(土) 開演 14:00
会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目 = ショパン:4つのマズルカ 作品68 シマノフスキ:4つのエチュード 作品4
シマノフスキ:創作主題による変奏曲 作品3 ラヴェル:水の戯れ
ラヴェル:高雅で感傷的なワルツ シマノフスキ:仮面 作品34
料金 = 一般: S 席3,500円 A 席2,500円 学生 A 席1,000円
メンバーズ: S 席3,150円

MUSIC

小山実稚恵 ピアノ・リサイタル

彩の国さいたま芸術劇場開場15周年を記念して、
小山実稚恵が劇場への思いをこめて組んだ特別プログラム！

©Katsuo Sakayori

チケット発売日 一般:5月16日(土) ※メンバーズ発売中

日時 = 10月3日(土) 開演 14:00
会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目 = ショパン:バラード第1番 ト短調 リスト:ラ・カンパネラ
ラフマニノフ:ピアノ・ソナタ第2番 変口短調 ほか
料金 = 一般: S 席4,000円 A 席3,000円 学生 A 席1,500円
メンバーズ: S 席3,600円 A 席2,700円

DANCE

dancetoday2009

チケット発売日 一般:5月30日(土) メンバーズ:5月23日(土)

詳細は P.14 ～ 15 にて

【チケットの購入方法について】

財団チケットセンター

048-858-5511 10:00 ～ 19:00
(休館日を除く)

●窓口営業時間

彩の国さいたま芸術劇場 10:00 ～ 19:00 (休館日を除く)
埼玉会館 10:00 ～ 19:00 (休館日を除く) 熊谷会館 10:00 ～ 17:00 (休館日を除く)

●電話予約&販売

チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。
※埼玉会館、熊谷会館ではチケットの電話予約は行っておりません。

●窓口販売

各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)のチケット販売窓口にて、3会場のチケットをお買い求めいただくことができます。

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『青い鳥』

不器用な吃音の教師が生徒に注ぐ、優しくて
真っ直ぐな視線に感動せずにはられない。
心に沁みる物語。

©2008「青い鳥」製作委員会

チケット発売日 一般・メンバーズ:6月5日(金)

日時 = 8月7日(金) 13:15 / 16:00 / 19:15
8日(土) 10:00 / 13:25 / 16:10 / 19:35
9日(日) 10:00 / 13:05 / 16:10 / 19:15

※8/7(金)13:15 上映回、音声ガイドがつきます。イヤホン付きFM ラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。

※8/9(日)13:05 上映回終了後、アフタートークがあります。

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

監督 = 中西健二 原作 = 重松清

出演 = 阿部寛 本郷奏多 伊藤歩 井上肇 ほか (2008年/日本/105分)

料金 = 一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円

※60歳以上、障がい者の方 前売/当日1,000円

MUSIC

レ・ヴァン・フランセ

フランスのエスプリ満載！
最高の奏者が奏でる最高の本管アンサンブル！

©堀田正祐

チケット発売日 一般:6月20日(土) メンバーズ:6月13日(土)

日時 = 12月5日(土) 開演 15:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演 = エマニュエル・バユ(フルート) フランソワ・ルルルー(オーボエ)
ポール・メイエ(クラリネット) ラドヴァン・ヴラトコヴィチ(ホルン)
ジルベール・オダン(ファゴット) エリック・ル・サージュ(ピアノ)
料金 = 一般: S 席5,000円 A 席4,000円 学生 A 席2,000円
メンバーズ: S 席4,500円 A 席3,600円

MUSIC

村治佳織 ギター・リサイタル

人気ギタリスト、満を持して登場！
若き才能が奏でるロマンティックなきらめき

©Kiyotaka Saito

チケット発売日 一般:6月27日(土) メンバーズ:6月20日(土)

日時 = 10月24日(土) 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目 = メルツ:ウェーバーの主題によるカプリス 作品50 ほか
料金 = 一般: S 席4,000円 A 席3,000円 学生 A 席1,500円
メンバーズ: S 席3,600円 A 席2,700円

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.11 福間洸太郎

知性と感性のきらめきを感じさせる俊英ピアニスト、
意欲的なプログラムで3年ぶりに再登場！

チケット発売日 一般:7月18日(土) メンバーズ:7月11日(土)

日時 = 11月28日(土) 開演 14:00
会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目 = J. S. バッハ:《フーガの技法》より バラキレフ:イスラメイ ほか
料金 = 一般: S 席3,500円 A 席2,500円 学生 A 席1,000円
メンバーズ: S 席3,150円

発売中公演情報 (2009.5.15 ～)

PLAY

源氏語り五十四帖

日時＝第49回「東屋(あずまや)」5月17日(日) 第50回「浮舟(うきふね)1」7月12日(日)
第51回「浮舟(うきふね)2」9月27日(日) 各回開演14:00
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 出演＝幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:上智大学教授)
料金＝全席指定 1回券:2,500円 第49～51回連続券:6,600円

さいたまゴールド・シアター第3回公演『アンドウ家の一夜』

詳細は P.4～5にて

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

～彩の国落語大賞受賞者の会 立川生志

日時＝7月4日(土) 開演16:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演＝立川生志 春風亭昇太(ゲスト) ほか
料金＝一般:3,000円 メンバース:2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上) 2,000円

松竹大歌舞伎

日時＝7月18日(土) 昼の部12:30 夜の部17:30 会場＝熊谷会館
出演＝片岡仁左衛門 ほか 演目＝「正礼附根元草摺」「義経千本桜」
料金＝一般:特等席6,000円／一等席2,000円／二等学生席1,000円／おためし席1,000円
メンバース:特等席5,400円

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『マルタのやさしい刺繍』

日時＝5月22日(金) 13:00／15:40／18:50
23日(土) 10:00／13:00／16:00／19:10
24日(日) 10:00／13:00／15:30／18:30

※5/23(土) 13:00上映回終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。

会場＝彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督＝ベティナ・オベルリ
出演＝シュテファニー・グラザー アンネマリー・デュリಂಗー ハイジ＝マリア・グレスナー
モニカ・グブサー ほか (2006年/スイス/89分)
料金＝一般:前売1,200円／当日1,400円 小中高生:前売800円／当日1,000円
※60歳以上、障がい者の方 前売／当日1,000円

彩の国シネマスタジオ『闇の子供たち』

日時＝6月12日(金) 14:20／18:20
13日(土) 10:30／14:30／18:30
14日(日) 10:00／14:30／18:30

※6/12(金) 14:20上映回は、音声ガイドがつきます。イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。 ※6/14(日) 10:00上映回終了後、プロデューサー＝椎井友紀子氏によるアフタートークがあります。

会場＝彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督・脚本＝阪本順治 原作＝梁石日
プロデューサー＝椎井友紀子 出演＝江口洋介 宮崎あおい 妻夫木聡 佐藤浩市 鈴木砂羽
ほか (2008年/日本/138分)

料金＝一般:前売1,200円／当日1,400円 小中高生:前売800円／当日1,000円
※60歳以上、障がい者の方 前売／当日1,000円

公演詳細は、財団ホームページ

http://www.saf.or.jpにて

3才以上のお子さんから
楽しめていただける公演です。

SPECIAL PICK UP

夏休みは埼玉会館でオーケストラ体験！

いろいろな楽器があり、演奏する人も
たくさんのおケストラ。「夏休みオー
ケストランド！」では、この「オーケス
トラ」の魅力にとことん迫ります！
ディズニーのメロディーに乗って楽器

を紹介、優雅なワルツの中に名曲が
かくれんぼする《シンフォニア・ドナ
ウ》で曲探し、「指揮者にチャレンジ！」

では、あの「運命」の冒頭に挑戦、「ボニョ」をオーケストラと一緒に演奏…
など盛りだくさんな内容です。夏休みは埼玉会館へ！



© 加藤英弘

DANCE

コンドルズ 埼玉公演 2009 新作『白と黒のナイフ』

日時＝5月23日(土) 開演15:00／19:00 24日(日) 開演16:00
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 構成・映像・振付＝近藤良平
出演＝青田潤一 石淵聡 オクダサトシ 勝山康晴 鎌倉道彦 古賀剛 小林顕作
田中たつろう 橋爪利博 藤田善宏 山本光二郎 近藤良平
料金＝一般:前売4,500円／当日5,000円 メンバース:前売4,050円／当日4,500円 学生席:2,500円

ヤン・ファープル『寛容のオルギア』 詳細は P.12～13にて

MUSIC

クリスチャン・ツィメルマン ピアノ・リサイタル

日時＝5月22日(金) 開演19:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目＝J. S. バッハ:バルティータ第2番 ハ短調 BWV826
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 作品111
ブラームス:4つの小品 作品119
シマノフスキ:ポーランド民謡の主題による変奏曲 作品10
料金＝一般:S席10,000円／A席8,000円／学生A席3,000円
メンバース:S席9,000円／A席7,200円 ※S席残席僅少 A席・学生A席予定枚数終了

埼玉会館ランチタイム・コンサート

第7回 N響メンバーによる金管五重奏 5月28日(木)

ヘンデル:ゆかいな鍛冶屋の変奏曲 久石譲:「天空の城ラピュタ」メドレー ほか

第8回 東京交響楽団メンバーによる木管五重奏＋バグパイプ 7月2日(木)

ハイドン:ディヴェルティメント アメイジング・グレイス ほか

第9回 古部賢一(新日本フィル首席) オーボエ・リサイタル 10月27日(火)

各回開演12:10(終演予定13:00) 会場＝埼玉会館 大ホール 料金＝各回全席指定1,000円

NHK 交響楽団 準・メルクル(指揮) 佐藤俊介(ヴァイオリン)

日時＝6月21日(日) 開演15:00 ※14:25～40に指揮者 準・メルクル氏によるプレコンサート・トークあり。
会場＝埼玉会館 大ホール
曲目＝メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 小短調 作品64 ラヴェル:ボレロ ほか
料金＝一般:S席7,000円／A席5,500円／B席4,000円／学生B席2,000円
メンバース:S席6,300円／A席4,950円／B席3,600円

ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.9 アレクサンダー・ガヴリリュク

詳細は P.16～17にて ※4回セット券(Vol.9～Vol.12)も販売しております(6月27日<土>まで)

バッハ・コレギウム・ジャパン

ヘンデル没後250年記念特別プログラム 鈴木雅明 cond. & org.

詳細は P.18～19にて

埼玉会館ファミリー・クラシック

夏休みオーケストランド！ 詳細は下枠にて

●●●●● MUSIC ●●●●●

埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストランド！

【日時】8月2日(日) 開演 14:00 (16:00 終演予定)

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】飯森範親(指揮) 朝岡 聡(ナビゲーター) 嘉村ゆりえ(ピアノ) 東京交響楽団(管弦楽)

【曲目】小室昌広:ディズニーのメロディーによる管弦楽入門
モーツァルト:ピアノ協奏曲第26番 二長調「戴冠式」より 第3楽章(ピアノ:嘉村ゆりえ)
川島素晴:シンフォニア・ドナウ
♪みんなで歌おう&演奏しよう！(歌や好きな楽器でオーケストラと共演)
久石譲:「崖の上のポニョ」より 「崖の上のポニョ」
♪指揮者にチャレンジ！(公演当日、開演前に申し込み・抽選)
ベートーヴェン:交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」より 第1楽章 ほか

【チケット(税込)】好評発売中

S席 大人3,500円 こども(中学生以下) 1,500円
A席 大人3,000円 こども(中学生以下) 1,000円 ※3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。

information インフォメーション

蜷川幸雄公開対談

NINAGAWA千の目 第19回

【日時】7月26日(日) 開演12:00(約1時間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【定員】150名(入場無料・抽選)

演出家 蜷川幸雄

×

俳優

勝村政信



勝村 政信 (かつむら まさのぶ)

俳優。埼玉県出身。ニナガワスタジオを経て劇団第三舞台に入団し、1992年退団まで主要メンバーとして活躍。以降、数々の舞台、TVドラマ、CM、ナレーションと幅広く活躍している。近年の主な出演作に、蜷川演出作品では『天保十二年のシェイクスピア』『白夜の女騎士』『コロオレイナス』『表裏源内蛙合戦』、他にTV『監査法人』『コード・ブルー』『瞳』『スマイル』、映画『HERO』『ビルと動物園』『禅 ZEN』など。9月には蜷川演出の舞台『コースト・オブ・ユートピア』に出演する。

【申し込み方法】

入場券の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます。
※メンバーズの方への優先枠あり。

●記入事項

①郵便番号・住所 ②氏名(フリガナ) ③年齢

④会員番号(財団メンバーズの方)

⑤希望人数(1枚のハガキで2名様まで)

●応募締切 6月30日(火) 必着

●応募先

〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1

(財)埼玉県芸術文化振興財団「千の目」7/26入場募集係

●問合せ先 メンバース事務局 tel.048-858-5507

review 公演レビュー

堤 剛 & 小山実稚恵

デュオ・リサイタル

～オール・ブラームス・プログラム～



© 加藤英弘

文=萩谷由喜子 [音楽評論家]

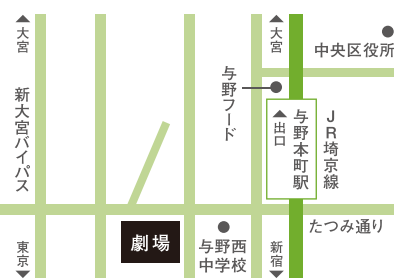
彩の国さいたま芸術劇場の3つのホールは単なる大、中、小ではなく、目的に応じた設計が特質だ。音楽ホールはクラシック音楽、ことに室内楽にうってつけのホールだが、まさにそのホールの名音響と演奏家の白熱が相乗効果を生んだ稀有のコンサートに遭遇した。堤剛と小山実稚恵のデュオ・リサイタルである。プログラムはブラームスのソナタ3曲。好対照をなすオリジナル2曲にヴァイオリンからの編曲作品をどう位置づけるか。熱気と期待の裡に、チェリストの全身から焔が立ち昇るほどの気迫とともにホ短調の第1番が始まった。ピアニストは懐深く剛柔自在だが、守り一方ではなく作品にひとと対峙する姿勢と力感チェリストにも劣らない。両者の楽譜の読み込みの深さは、阿吽の呼吸のうちのダイナミクス・レンジにも如実に現われ、聴衆を飲み込むような昂揚感がもたらされた。

ト長調ヴァイオリン・ソナタは二長調に移されただけに、チェロではハイポジションの頻出する難曲だ。そのハイポジションでときに朗々と、ときに甘美に歌われる歌を聴けば、メロディスト、ブラームスの真骨頂と両演奏家の歌心が胸に迫る。

最後にヘ長調の第2番。ピアノのトレモロは熱を帯び、チェロは雄渾に動機を示す。どんなさやかな楽句も迫真の気合を込めて大切に歌い交わされ、アンサンブルとしての妙味はここにクライマックスを迎えた。第2楽章の流麗、第3楽章の情熱、フィナーレの晴朗、ブラームスの「明」の一面を強く印象づける快演だった。(2009年3月8日 音楽ホール)

ACCESS MAP アクセスマップ

彩の国さいたま芸術劇場



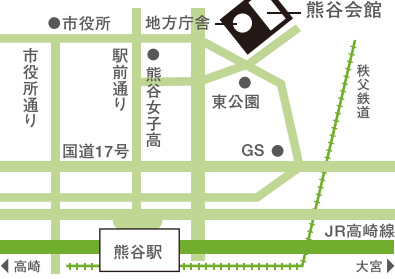
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
電車でのアクセス JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
バスでのアクセス JR 北浦和駅から西武バス大久保行き
「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
電車でのアクセス JR 京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536
電車でのアクセス JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

「簡単」・「早い」 インターネットチケット購入

Point 1 時間を気にせずいつでもアクセス(24時間受付)

Point 2 メルマガで公演情報をいち早くキャッチ

Point 3 気になる公演の空席状況をチェック

Point 4 WEB 先行販売で良席確保(一部公演のみ)

Point 5 キャッシュレスでらくらく購入

Point 6 購入チケットは自宅へお届け

Point 7 ホームページから簡単 WEB 登録(無料)

※メンバーズの方も WEB 会員登録が必要です。

http://www.saf.or.jp (PCのみ)

■サポーター会員

(財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)エフテック／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／金井大道具(株)埼玉りそな銀行／(株)パンフィックアートセンター／アサヒ印刷(株)／FM NACK5／東京電力(株)埼玉支店／東京ガス(株)／JA/JA埼玉県信連／カヤバ システム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)十萬石ふくさや／森平舞台機構(株)／日本データコム(株)／(株)ビルメン／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)／ゲレツ・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング(株)／(株)ショーモン／埼玉スバル自動車(株)／(株)東玉／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター／不動産発(株)／ビストロ やま／ホッカイエムアイシー(株)／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国SPグループ(有)プラネット／トキタ種苗(株)／関東自動車(株)／日本ピストンリング(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／(株)グリーン企画社／(株)中島運輸／(株)国際ビジネス研究所セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／太平洋セメント(株)／(株)ビー・アンド・イー・ディレクションズ／朝日新聞 伸光堂さいたま販売(株)／丸美屋食品工業(株)日立キャピタル(株)／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉建興(株)／(株)日産サティオ埼玉／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所(株)埼玉交通／(株)東和銀行／医療法人 顕正会 蓮田病院／(株)ウイズネット／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)ヤマハサウンドテック(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス H21.4.15現在／一部未掲載

【問合せ先】(財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

劇場に遊ぶ、劇場で出会う 第1回 【舞台芸術資料室】

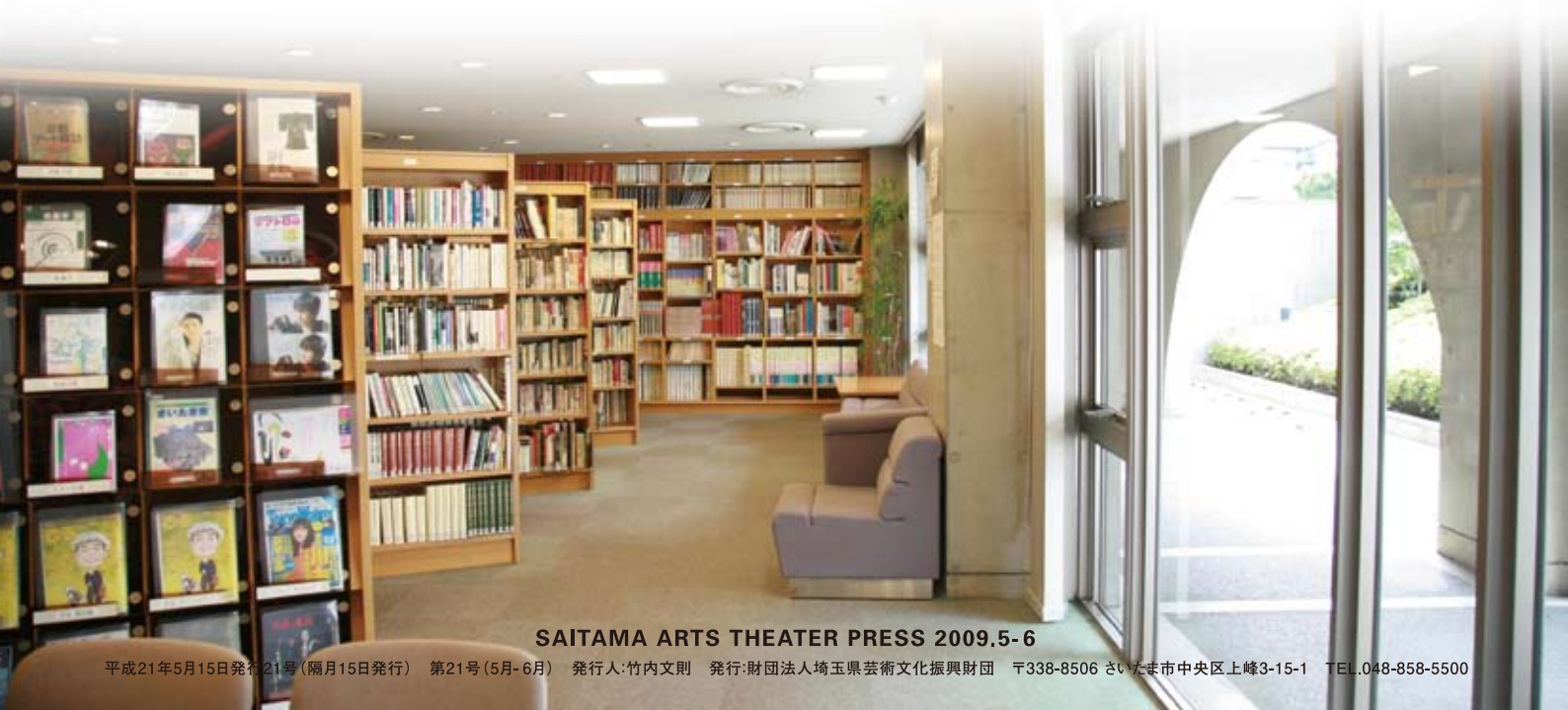
1階情報プラザの一角にある[舞台芸術資料室]は、知る人ぞ知る舞台芸術に関する資料の宝庫。明治期の『演藝画報』全21巻といった貴重な資料もあるが、やはり蜷川幸雄芸術監督のライフワークを反映してシェイクスピア関連の資料が目をはく。書籍はもちろん、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」21作品のうち13作品はいつでも映像で見られるし、全作品は英国BBCが放映した映像がそろっているのもうれしい。

また、「あの舞台、見逃したので……」という当劇場主催公演のダンスやピアニスト・シリーズなどの公演記録も一部公開、視聴ブースで見ることができる。主催公演以外の映像では、今はもう廃盤になり、家庭でも見るできない貴重なLDも1000枚余り収蔵。思わぬ名作に巡りあえるかもしれない。最近、新たに加わったのが「松岡文庫」。シェイクスピアの翻訳でも知られる松岡和子さん寄贈の図書が500冊以上。中には松岡さんの書き込みがあったり、それはそれで興味のわくところ。

劇場スタッフにとっても、ここは宝庫。『ムサシ』の時は、台本に書かれた能の参考にと、連日訪れては能関連の本を読破、一心にノートをとっていたという。観劇の行き帰りだけではなく、あなたの資料室として、「探す・調べる・見る」という目的をもってわざわざ足を運ぶ価値は十分ある。



- ◆ 開室時間：午前9時～午後6時
- ◆ 休室日：第1・第3・第5月曜日(祭日の場合は翌日)、および休館日・臨時休館日
- ◆ 資料の閲覧・視聴は無料。貸出およびコピーサービスは行っていません
- ◆ 資料室所蔵の資料の検索はWebサイトでできます



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2009.5-6

平成21年5月15日発行 第21号(隔月15日発行) 第21号(5月-6月) 発行人:竹内文則 発行:財団法人埼玉県芸術文化振興財団 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500